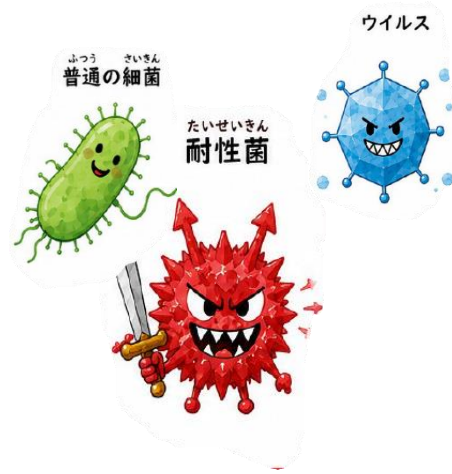


「HARE プロジェクト」の活動を見学しました。





6月20日(土)、広島大学サークル「HARE プロジェクト」主催の「あそんで学ぼう！おくすりカードゲーム」を見学してきました。

HARE プロジェクトでは、広島大学医療系の学生が中心となり、薬剤耐性と抗菌薬の適性使用について、子どもと保護者が分かりやすく学べる体験型ワークショップを開いております。

「薬剤耐性」「抗菌薬の適性使用」、普段の生活の中では、まず聞くことも、使うことのない言葉です。HARE プロジェクトのメンバーに教えていただき、また自分でも調べてみたことで、大まかに、以下のようなことが分かりました。

- ・抗菌薬を使用すると、薬に弱い菌は死滅し、強い菌だけが生き残るが、その強い細菌が増えることで、「薬が効きにくい菌＝薬剤耐性菌」が生まれてしまう。
- ・結果、微生物に対する薬が効きにくくなる現象を「薬剤耐性」と呼ぶ。
- ・耐性菌が増加すると、これまで治療できていた感染症の治療が難しくなるおそれがあるので、「抗菌薬の適正使用」が大切。

	性質	種類 (例)	抗菌薬
ウイルス 	自分だけでは増えることができず、人や動物など、他の生き物の細胞の中に入り込み、その細胞の力を借りて増殖する	インフルエンザウイルス 新型コロナウイルス	効かない
細菌 	細胞を持ち、自分で栄養を取り込み、分裂して増える	大腸菌、肺炎球菌	効く (適正使用)

これまで処方されるがまま、飲んでいた薬……。この活動に出会ったおかげで、初めて、少し頭の整理ができました。ただ、これらのことを子どもたちに分かってもらい、日々の生活に活かしてもらうには、どうしたらよいか……。

そこで、HARE プロジェクトのメンバーが考えたのが、「おくすりカードゲーム」です。

おくすりカードゲーム



例えば「のどがとても痛い」は、典型的な風邪の症状です
風邪などのウィルス感染症に、抗菌薬は効くでしょうか？効かないでしょうか？
あなたなら、この問題に、抗菌薬カードは使いますか？使いませんか？



くすりのムダづかいは「げんてん」になるよ！
「元気バリアカード」はどんな ばいきんにもつかえて、+2てん、もらえるよ！

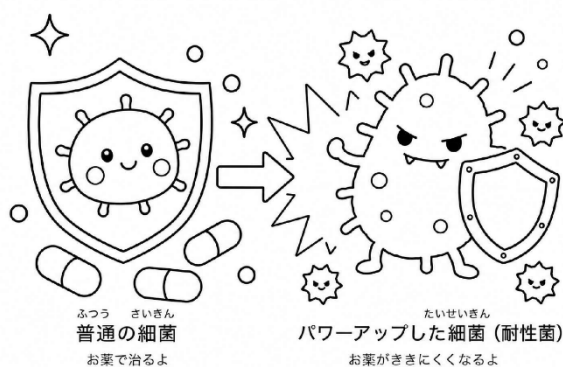
子どもたちは、自分が体調を崩したときのことを思い出したり、一緒に来た保護者やお友達と話したりしながら「ばいきんカード」の問題に取り組み、「ピッタリ！+2てん」を目指します。

見学を通じ改めて、好奇心いっぱい新しいことを学んでいく子どもたちの姿を大変頼もしく思うとともに、工夫が行き届いたゲームで「子ども自身が考える主体となった学びの場」を創出している HARE プロジェクトの活動を素晴らしいと思いました。

HARE プロジェクトは、「カードゲーム」だけでなく、「絵本」「塗り絵」などの教材も作り活動しています。



塗り絵



HAREプロジェクトはマツダ財団の支援を受けて活動しています。公益財団法人マツダ財団

処方された抗菌薬は：



*絵本：「みさきちゃんが肺炎になった」より

この度のワークショップ、私自身も大変勉強になりました。
素晴らしい活動を見学させていただき、誠にありがとうございました！（竹岡）

*絵本も「支援団体 News」に、リンクを貼っております。どうぞご覧ください。